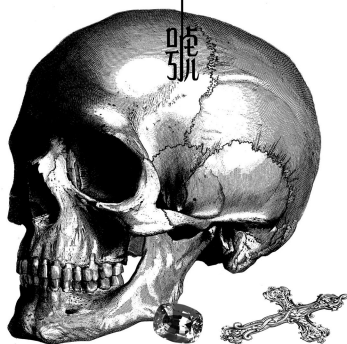


非実在 ~Airmys~ 探偵小説研究会

エアミステリ

拾弐

號



エアミステリ研究会

非実在探偵小説研究会12号 目次

企画

企画1 お題競作「怪奇・幻想ミステリ」

墓の家の殺人

王と十字架

田中がせまる

霧のなかの彼女たち

幽鬼と戦鬼

野良犬の喰うところ

企画2 オールタイムベスト青春ミステリ結果発表

ないとー

企画3 ショート・ショート

読み切り短編

握手会

麻里邑圭人

司波

望月佳司

根倉野蜜柑

佐倉丸春

岡村美樹男

田中大牙

表紙・扉ページ

ウスダアヤ

183

193

158

124

101

85

77

58

6

王と十字架

司波しば

低く垂れこめた曇天の下、一陣の風が吹き抜ける。高い山や深い谷がこの国にはいくつもあるが、なかでも、切り立った崖が多く見られるこは、通称（石の砦）と呼ばれている。灰色の空に、灰色の地面。まるで世界が色を失ったかのような場所。そんな険しい道を一台の馬車がゆつくりと進んでいた。前部に乗って馬を操るのは、全身を隠すように檻ぼろのロープをまとった御者。ときおり、馬がブルンと苦しそうな鼻息をたてるが、御者はためらいなく鞭をふるって先をせかした。

急ぐのには理由があった。後ろの席にすわる王が気の短い人間だからだ。傲慢で自分の思い通りにならなければ、何事も気が済まない。自分が止まりたくて止まるのでなく、馬のせいで止まるなど断固として認めないだろう。

北極圏に程近い、人口が数百に満たない小国の王。わ

がまな王。

国民にとつて王は好ましい人物ではない。例えばこんな話があった。先日、農夫の妻同士が些細なことから喧嘩した。どちらの言い分も筋が通っていたため、最終判断は王に任された。ところが、王はろくすっぽ両者の話をきかずに結論を下した。数日前、片方の妻が王に対して挨拶をしなかったというのを理由に（王の思い違いの可能性はじゅうぶんに考えられる）、気を悪くした王は挨拶をしない者は正しくないとし、その妻にすべての罪をきせた。

悲惨なことに罪の重さは、予想以上に過酷なものだった。王の気分で重くしたとしか考えられない。

結果、罪を背負わされた農家の夫婦は、衣食住に必要なほとんどを取り上げられた。まともに生きていくのもままならず、しまいに、妻は自分を責め、苦しみから首を吊って死んだ。

しかし、王は何とも思わない。気まぐれで他人の生死を天秤にかけることに、なんの躊躇もない。自分が世界の中心でありたい。誰かが自分より優位に立つのは我慢ならない。いま、（石の砦）にやってきているのもそれが理由だった。昨晚、隣国の王に招かれて会食を共にし

た。王は食事中、あるものに目がいった。隣国の王の姿が彫り込まれた石像に。じつと見入っていると、隣国の王は、満悦の様子で話しかけてきた。

「職人たちにつくらせたのですが、いかがです、なかなか似ているとは思いませんか？」

こくりと首を縦に振ったが、内心は不快な気分ではないだった。王にとつて他人の自慢ほど腹が立つものはない。この石像自体本人を美化してつくられていて鼻持ちならない。しかし、自分の石像をつくることに關しては、酷くうらやましいと感じた。その後は頭の中は石像のことばかりで会話をするにも上の空だった。いつも我慢している寶石を埋め込んだ十字架の首飾りも、ただ首回りを重くしている物質にすぎない。いつもより光も鈍く目にうつった。こんなものより石像がいい。もしも自分自身の石像をつくることができたら……

一夜あけた朝、王はすぐに自身の石像を作製する準備にとりかかった。従者を彫刻職人のもとへ走らせた。完成するまで城に住まわせて、そのあいだは寝る時間以外を制作にあてるよう伝えさせた。それから宝石職人を呼ぶことも忘れなかった。

「私の石像をつくるのだから、当然私と同じくこの世で

たつた一つの特的なものでなければならぬ。隣国の王のようなただの石像じゃつまらん。最高級のルビーを用意しろ。それを埋め込むのだ」

つくり手は決まったが重要なのは彫刻に必要な石だ。石も一番のものでなければ納得できない。優れた人間である自分の分身をつくるのだから、それ相応のものを用意するのは当然と考えた。

そこで白羽の矢が立ったのが〈石の砦〉と呼ばれる地帯にある岩山だった。古来よりこの地帯は神聖な土地として知られる。滅多なことでは足を踏み入れてはならない土地。この険しい岩山には〈隠れ人〉と名付けられる妖精が住んでいるといわれる。〈隠れ人〉は温厚な性格だが、土地を踏み荒らす者に対しては、容赦なく自然の脅威を与えろという。だからこの周辺に住む人間はよほどのことがないかぎり、〈隠れ人〉を怒らせないよう〈石の砦〉には近づかない。先の土地に進みたいときも、迂回して他の道を選ぶのがほとんどだった。それほど強く畏れを抱いて人々は生活している。

にもかかわらず、王はこの神聖な大地の岩を削りだして、自身の石像をつくるつもりでいる。人間が立ち寄るだけでも忌避すべき場で、あろうことか破損行為まで試

みようとしていた。

——何かまずいことが起きなければいいが。

御者は手綱に力を込めながら、不安の念を抱く。

王につかえる者にとって王の命令は絶対である。〈隠れ人〉どころか北欧神話に頻繁に登場する怪物トロールが現れようが、王が戦えと命じれば命を捨てても戦うくらいの心構えはある。忠実なしもべなのだから。

愚鈍な王。裏でそのように王の陰口をたたく者がいるのは知っている。王は誰からも尊敬されておらず、ただ恐怖で国を支配しているにすぎない。

しかし御者は王に忠誠を誓っている。それが正しいか正しくないかは、御者には関係がなかった。運命だと受け入れた以上、ただ王に尽くすことだけが、御者の人生なのだ。

二人を乗せた馬車は、〈泉の洞窟〉に向かっていた。

そこには、神聖な力が宿る良質な石がたくさんあると噂されていたからだ。特に洞窟の一番奥にある泉周辺の石は素晴らしいといわれる。泉の上の天井には丸い穴が空いており、そこから日の光が射し込み、それは美しく神秘的な風景だとも。

王は泉の石を自分の目でじかに見て、己の石像にふさ

わしい石を決めたかった。

日はかげりはじめ、夜を迎えようとしている。

本当はもつと早い時間に到着したかったのだが、王の衣装の着替えなどの準備が遅く、出かけるのに手間取ってしまった。

さらに御者の不安をいつそう駆り立てることが一つあった。

最近、この周辺に夜盗が出没するという噂があった。神聖な土地に足を踏み入れることを恐れない凶悪な犯罪者である。

遠くで狼の遠吠えがきこえた。この先の不安を告げるかのように、御者の耳には届いた。

+

続きは「非実在探偵小説研究
会12号」でお楽しみ下さい。

オールタイムベスト青春ミステリ結果発表

ないとー

ツイッター上で、二〇一五年一月一日から一月一二日にかけて投票を行った、オールタイムベスト青春ミステリの投票結果をまとめたものです。投票者九〇名による八二六票が、漫画も含む三三七作品に投じられました。

一九二三年の「二銭銅貨」から、二〇一四年の最新作までが並んだこのリストが、老若男女問わず、共感や憧れを抱き、懐かしさを覚えるであろう青春ミステリの傑作群が、一作でも多く触れられるきっかけとなれば幸いです。

【オールタイムベスト青春ミステリ実施要項（要約）】

1. 青春ミステリの定義は投票者に一任する
2. 国内作品に限る。
3. 長編、短編集、または短編単体にも投票可。
4. 投票できるのは、ひとり最大一〇作品。
5. 集計方式について：投票作品が九作以下の場合も含

め、順位有の場合は1位10点、2位9点……10位1点とカウントし、順不同とした場合のみ、一作につき5.5点配点。

6. シリーズ名での投票は不可。

【表の見方】

順位、作品・作者名、獲得票・ポイント数、発表年を掲載。短編には収録作品集のタイトルを併記しました。発表年度は、原則として、長編の場合は、単行本が刊行された年、短編の場合は、初出の年を記載しました。

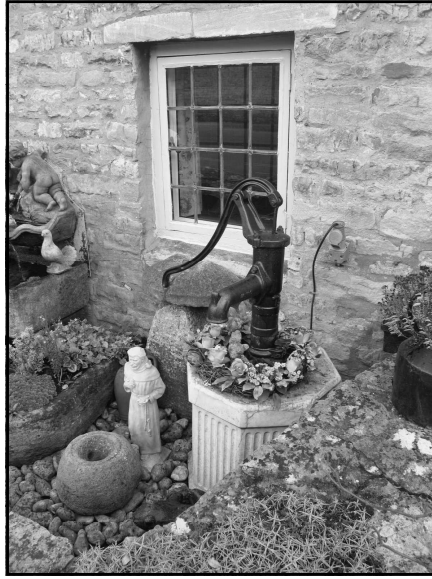
その他に、「ラ」とある欄に記載された数字は、「ライトノベル・少女小説から選ぶオールタイムベストミステリ」（エアミス研同人誌九号に掲載）での順位を表しています。「児」の欄に記載された数字は、「オールタイムベスト児童書ミステリ」（同人誌未掲載）での順位です。

青春ミステリ ベスト10

順位	作品名	作者名	票数	pt	発表年	ラ	児
1	さよなら妖精	米澤穂信	22	148.5	2004	18	123
2	クドリャフカの順番	米澤穂信	14	97.5	2005	14	
3	密閉教室	法月綸太郎	16	96.0	1988		
4	GOTH	乙一	14	93.0	2002	8	
5	Another	綾辻行人	16	91.0	2009	12	
6	匣の中の失楽	竹本健治	13	90.0	1978		
7	月光ゲーム Yの悲劇 '88	有栖川有栖	12	76.5	1989		
8	異邦の騎士	島田荘司	10	72.5	1988		
9	ボトルネック	米澤穂信	14	70.0	2006	210	
10	消失グラデーション	長沢樹	13	68.5	2011		

1 1 位～4 8 位

順位	作品名	作者名	票	pt	年	ラ	児
11	孤島パズル	有栖川有栖	11	68.0	1989		
11	墮天使拷問刑	飛鳥部勝則	10	68.0	2008		
13	[映]アムリタ	野崎まど	11	62.0	2009	1	
13	秋の花	北村薫	10	62.0	1991		
15	天帝のはしたなき果実	古野まほろ	11	60.0	2007	91	
16	青の炎	貴志祐介	10	58.5	1999		
17	双頭の悪魔	有栖川有栖	10	55.0	1992		
18	スプリング・ハズ・カム (『放課後探偵団』所収)	梓崎優	9	52.5	2010		
19	午前零時のサンドリヨン	相沢沙呼	9	52.0	2009	210	
20	夏と冬の奏鳴曲	麻耶雄嵩	7	47.5	1993		
21	世界は密室でできている。	舞城王太郎	8	45.0	2002		
21	葉桜の季節に君を想うということ	歌野晶午	7	45.0	2003		
23	ヴィーナスの命題	真木武志	7	44.0	2000		
24	アルバトロスは羽ばたかない	七河迦南	8	43.5	2010		
25	記憶の果て	浦賀和宏	7	36.5	1998		
26	氷菓	米澤穂信	6	35.5	2001	13	
26	水没ピアノ 鏡創士がひきもどす犯罪	佐藤友哉	6	35.5	2002		
28	ラットマン	道尾秀介	8	35.0	2008		
29	1/2の騎士	初野晴	5	33.5	2008	210	
29	六番目の小夜子	恩田陸	4	33.5	1992	94	
31	夏期限定トロピカルパフェ事件	米澤穂信	6	33.0	2006	5	
32	クビシメロマンチスト	西尾維新	6	32.0	2002	17	
33	水上音楽堂の冒険	若竹七海	5	31.5	1992		
34	海を見ないで陸を見よう	梶龍雄	5	31.0	1978		
35	ぼくらの時代	栗本薫	6	30.0	1978		
36	ルピナス探偵団の憂愁	津原泰水	5	29.0	2007		
36	太陽黒点	山田風太郎	4	29.0	1963		
38	体育館の殺人	青崎有吾	5	28.5	2012	114	
39	依存	西澤保彦	4	27.5	2000		
40	透明な季節	梶龍雄	4	27.0	1977		
41	遠まわりする雛	米澤穂信	3	26.0	2007	52	
42	ガラスの麒麟	加納朋子	6	25.5	1997		
42	わが一高時代の犯罪	高木彬光	4	25.5	1951		
44	闇の喇叭	有栖川有栖	3	25.0	2010	149	
45	優しい密室	栗本薫	4	24.5	1981		
46	“菜々子さん”の戯曲 Nの悲劇と縛られた僕	高木敦史	5	24.0	2010	22	
47	いなくなれ、群青	河野裕	4	23.5	2014		
48	でかい月だな	水森サトリ	5	23.0	2007	473	
48	ななつのこ	加納朋子	4	23.0	1992		
48	理由あって冬に出る	似鳥鴉	3	23.0	2007	73	



非実在探偵小説研究会～Airmys～12号

発行日 2016年11月23日
発行 エアミステリ研究会
連絡先 airmysdj@gmail.com
<http://www43.atwiki.jp/airmys-dj/>
価格 750円
印刷所 株式会社ポプルス

Special Thanks

編集作業をお手伝いして下さったエアミス研有志メンバー

©2016 エアミステリ研究会 作品の著作権は各著作者に帰属しています